

検 査 部

1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	18人
その他（技術補佐員等）	13人
合 計	33人

2 教員の異動状況

飯野和美（助教）（H17. 4. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）

橋本 大（助教）（H20. 3. 1 現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（4編）
そのインパクトファクターの合計	1.863
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Iino K., Oki Y, Matsushita F, Yamashita M, Hayashi C, Miura K, Nishizawa S, Nakamura H;

Immunohistochemical properties of silent corticotroph adenoma and Cushing's disease. Pituitary;10(1):35-45. 2007

2. Katsuda I, Maruyama F, Ezaki K, Sawamura T, Ichihara Y; A new type of plasma prekallikrein deficiency associated with homozygosity for Gly104Arg and Asn124Ser in apple domain 2 of the heavy-chain region. Eur J Haematol 79 : 59-68. 2007
3. 飯野和美, 沖隆; 褐色細胞腫: 画像診断の実際と問題点. ホルモンと臨床 55(11):1051-1057. 2007
4. 石川仁子, 谷口照美, 浦本 武, 竹下明裕, 前川真人; 遺伝子メチル化の臨床検査に及ぼす影響に関する研究. 日本臨床検査自動化学会誌32(1): 12-18, 2007
5. 渡邊弘子, 杉浦 綾, 前川真人; 自動分析装置(AES320)による新規セルロースアセテート膜, セレカ-VSPの臨床検査性能の評価. 生物物理化学 51: 125-128, 2007.
6. 渡邊弘子, 杉浦 綾, 大竹和子, 大竹皓子, 深田比呂子, 堀井康司, 村田 満, 中村和代, 須郷秋恵, 宮島栄治, 宮崎京子, 米山正芳, 江上照夫, 渡邊 卓, 芝 紀代子, 前川真人; 新規セルロースアセテート膜‘セレカ-VSP’の血清タンパク分画検査への評価: ロット間差および施設間差の多施設共同研究. 生物物理化学 51: 135-145, 2007.

インパクトファクターの小計 [1.863]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 石川仁子, 前川真人; 高LD血症の原因検索, 特にLDアイソザイム解析から見出された知見 生物物理化学 51: 243-246, 2007.
2. 石川仁子; LDアイソザイム検査にて 1 本余分のバンド出現 検査と技術 35(12) 1388-1389, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(5) 症例報告

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

1. 松下文枝, 沖隆, 松下明生, 小澤恵, 林千雅, 山下美保, 飯野和美, 西澤茂, 中村浩淑; Cabergoline投与により下垂体腫瘍の縮小をみたCushing病の1例. ホルモンと臨床 (0045-7167) 55巻夏季増刊 Page13-20 (2007. 06)

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (185万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 石川仁子(代表者) 若手研究(B)「アミラーゼの遺伝子発現の新規タイピング法の開発と腫瘍産生アミラーゼ解析への応用」110万円
- 浜田悦子(代表者) 奨励研究「肝細胞癌における腫瘍マーカー高値のメカニズム解明に関する研究」75万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	6件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

- Hamada H, Maekawa M ; An educational case showing unexpected low glycosylated hemoglobin value, macrocytic anemia and thrombocythemia. American Association for Clinical Chemistry 2007, 7, SanDiego (USA)
- Hamada H, Maekawa M ; Evaluation of a turbid metric immunoassay for D-dimer and fibrinogen using Dimension RxL MAM random access autoanalyzer. 2007, 7, SanDiego (USA)
- Yamakage N, Takeshita A, Shinjo K, Ono T, Hirano I, Okinaka K, Nakamura S, Shigeno Maekawa M, Ohnishi K, Ohno R ; Cell cycle features and quantitative alteration of target molecules of malignant B cells treated with CMC544 alone or in combination with rituximab. American Society of Hematology 2007, 12, Atlanta (USA)
- Takeshita A, Shinjo K, Yamakage N, Ono T, Hirano I, Okinaka K, Matsui H, Nakamura S, Shigeno K, Maekawa M, Ohnishi K, Sugimoto Y, Ohno R ; Reduced effect of CMC544 on P-glycoprotein positive malignant B cells and its restoration by multidrug resistance

- modifiers. American Society of Hematology 2007, 12, Atlanta (USA)
5. Takeshita A, Yoshiyama Y, Mohri J, Shinjo K, Nakamura S, Shikeno K, Suzumura T, Fujihara H, Iino K, Maekawa M, Ohnishi K, Ohno R. Toxic cardiac interaction between arsenic trioxide and antifungal azole: analysis in chick embryos and in patients with acute promyelocytic leukemia. 2007, 6, Vienna (AUSTRIA)
 6. Iino K, Oki Y, Matsushita F, Yamashita M, Hayashi C, Nakamura H, Nishizawa S ; Expression of Cell Proliferation-Related Proteins in Prohormone Convertase 2 (PC2) Positive Human ACTH Producing Pituitary Adenoma. The Endocrine Society's Annual Meeting, 2007/06/05 Tronto. (CANADA)

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. ACTH産生下垂体腫瘍における腫瘍細胞増殖，成長因子と，prohormone convertaseの発現との関連についてを主に免疫組織化学を用いて検討し国内外内分泌学会にて発表した。また論文投稿中である。
(飯野和美)
2. 原発性アルドステロン症患者の治療前後における頸動脈内中膜複合体厚を頸動脈エコーにて測定し，高アルドステロン状態における動脈硬化への影響を検討している。
(飯野和美)
3. 入院糖尿病患者約200名において食事前後の超低比重リポ蛋白－中性脂肪（VLDL-TG）を測定し，他のメタボリックマーカーとの関連を検討している。
(飯野和美)